

淀川水系流域委員会 様

新委員に選出された委員の皆さま大変ご苦勞様です。大変な過密日程の中ですが、新河川法の趣旨を全うしたご審議と決定をしていただきますようよろしくお願いします。

私も宇治「防災を考える市民の会」も9月1日に「住民懇談会」を開催するなどよりよい河川整備計画が策定されるように奮闘しているところです。

その中で、出されております下記の内容について十分な審議を経て住民にもわかりやすく理解できる内容にさせていただきますようお願いいたします。

07/09/03 宇治「防災を考える市民の会」 梅原 孝

1、天ヶ瀬ダム流域に対する流域流量と大戸川ダム問題について

- ①これまでの説明では、南郷洗堰より天ヶ瀬ダムまでの流域で2日間に272mmの降雨に対して2800トンの流量になる。大戸川にダム建設・調整して300トンに減量、天ヶ瀬ダムで1200トンに調整して放流し、宇治橋までの間で300トン増える。宇治橋付近から槇島で1500トンの流量になる。そして山科川合流地点で2400トンになり、桂川5100ト、木津川6100トと合流して12000トン/秒の計画と聞いてきました。

今回整備局提示案の淀川計画高水流量図では、宇治川・宇治地点で1500ト、桂川は、200トを増量し5300トに、木津川は、100ト増量の6200トになっています。

南郷洗堰から三川合流地点まで1500トの明示しかありませんが大戸川下流、天ヶ瀬ダム、宇治橋、槇島堤防付近、隠元橋、山科川下流での流量はいくらになるのか明らかにしていただきたいと思います。

- ②大戸川ダムは、「治水分のみに対応した穴あきダムとして建設する。」となり、理由は、「桂川の河川改修に伴い、下流の流入量が増える淀川の枚方市で計画水位を超えることが予測されるため、上流部で流出を抑える必要がでたため」とのことらしいですが、それなら宇治川の流量を減じることになるのではないのでしょうか。

そうであるならば流域治水に対しては、現況の天ヶ瀬ダムで対応可能で巨費を投じてトンネルを掘ることもなくなるのではないのでしょうか。

- ③大戸川流域には、約10のゴルフ場が存在し、その面積は、流域の1割にも及んでいます。大半がS47年の改訂以降に建設されています。各ゴルフ場の調整池等の設備能力は、どうなのか。ここをさらに強化することで、流域流量を減量することができるのではとも考えますが検証をお願いします。

2、洗堰「全閉鎖操作撤廃」問題について

南郷洗堰については、「流域全体の治水安全度の向上を図る観点から、所要の堤防等の整備や洪水調整施設の整備を行った後、下流に影響を及ぼさない範囲で、原則として瀬田川洗堰の全閉操作は行わないこととし、洪水時においても洗堰設置前と同程度の流量を流下させることとする。」となっています。結果、琵琶湖沿岸の浸水被害対策でどれだけの効果があるのか。明確にしていきたいと思います。

3、ダム流下方法について

これまで既存の施設を利用するとかダム本体にさらに2つの排水溝を設置する提案もされてきましたが、今回の提案では、最初の提案どおりダム左岸側にトンネルを掘って放流するとなっています。なぜそうなったのか、明確な説明と検証をお願いします。

4、ダム放流時に発生する低周波音問題について

志津川区への2回の説明会後、昨年と今年にかけて実態調査がされています。調査日には振動が少なく、終わってから大きく感じるなどの声が出ています。トンネル方式になればどうなるのか具体的な説明と検証をお願いします。

また周辺の家屋だけでなく下流域で頻繁におこるがけ崩れへの影響など1500トン放流になればどうなるのか不明です。

5、塔の島地域の流下能力、景観、亀石問題、鵜飼問題などについて

塔の島検討委員会でも議論されてきましたが、締切り堤の撤去などについては撤去改善の提案がされましたが、亀石問題は解決不能の状態です。鵜飼についても9月1日に体験しましたが、本川に出てやっていたときの醍醐味がありません。女性鵜匠の方ががんばりで盛り上げていただいていると感じました。また鵜がとった魚は、かつてはすぐに天ぷらにして食べられましたが、今は無理で、鮎もほとんどとれないとのことで、随分、環境が悪化したと思いました。なぜ鮎がいなくなったのか、魚が食べられないのか。この点での検証もお願いします。本川で安全に鵜飼ができるかつての宇治川にして欲しいと思います。

6、左岸槇島堤防、右岸堤防問題について

宇治川左岸、槇島堤防の再決壊への不安が強く、重要水防箇所も多数あります。H16年3月の整備局淀川堤防強化検討委員会の報告では、「堤防としては非常に脆弱で、26.3kmのうち22.5kmが浸透や浸食に対して安全度が低い」とされています。

今回の提案では「堤防補強については、宇治川においては3.4キロで実施する。安全度が特に低く被災履歴のある箇所から優先的に対策を施し、概ね10年以内で全区間の対策を完了する予定。」とされています。何をもって安全と判断できるのかわかりやすい説明をお願いします。

7、魚類、水質問題について

なぞの白い泡が発生し、淀川河川事務所はH19年3月12日には第1回塔の島地区環境問題対策研究会設立、検討されています。

緑色の水、魚が食べられない。ハエ、うなぎ、鮎の激減、ブラックバス、ブルーギル等の繁殖。宇治川は死んだ川になったとも聞きます。これはダムに魚道がなく完全に遮断されていることも大きな要因ではと考えます。これまでの自然環境を取り戻すためにこの点での検証もお願いします。

8、内水排除問題について

今回の提案では、山科川上流において1500 t/s の流下能力を確保する。となっていますが、天ヶ瀬ダムから宇治橋付近の間では、流域流量300 t が加算されていると考えますが、以降、三川合流点までの計画流量は、不明です。戦川、堂の川などの主要な河川が流入していますが、これで内水処理ができるのでしょうか。

9、減砂対策問題について

H18年3月22日版「具体的な整備内容シート（基礎案）」では、土砂移動の障害を軽減するための方策を検討の項で、大峰橋上流よりダム下流への「土砂吐きトンネル」が検討されていますが、どのように実施するのか不明です。

10、利水問題について

全てのダムで、人口減、給水量減の中で利水計画が撤退されている中で、天ヶ瀬ダムのみ計画の変更がないのはなぜでしょうか。府、市においても需要増は考えられず、巨額の負担金額からみて必要の無い支出は、住民から理解されないものです。

すでに何十年と現状のダムで対応できていることからみれば、再開発の必要はないのではと考えます。見直しが必要ではないでしょうか。

以 上